

まちづくりネットワーク岸和田会合録

1. 日 時 平成18年10月25日 18:30～20:50

2. 場 所 岸和田市立公民館

3. 出席者 (受付簿記帳順)

西岡数房、池阪雄宏、東山千恵、金野精一郎、河原早百合、昼馬光一、和田 裕、
西川照彦、陣川美佐、今村信彦、栄沢直子、野村恵子、勇 徳和、三橋建作、三橋さくら、
細見 力、秋山倫子、野路義幸、下村二三子 以上19名。

(進行) 河原早百合、(記録) 今村信彦

4. 10月のゲストスピーカー

ゲスト **水内俊雄さん** (大阪市立大学都市研究プラザ・大学院文学研究科 教授) 政治社会地理学を教えるが、ホームレス問題について研究している。



5. テーマ 「ホームレスから見た社会の現状」

6. 配布資料

①文献「野宿生活者だけがホームレスではない」、「野宿・脱野宿生活者への自立支援」、「釜ヶ崎・あいりん地域の現状と野宿生活者問題」「なにわ路情」(野宿考ジャーナル) 見本紙

②説明資料「ホームレス自立支援システムの概略」、日本の公的セクターにおける野宿生活者支援の都道府県、市別の実態」

③きしわだし図書館だより ④グリーンコンシューマーとはなにか

⑤まちづくりネットワーク岸和田(まちネット)のご案内

7. お話の内容

* 自己紹介

和歌山市に生れ京都に通学したので南海電車の思い出は多い。
京都大学博士課程から九州大学に3年、次いで富山大学に勤務、11年前都市問題研究のメッカ大阪市立大に移り堺市の泉北ニュータウンに住むが、1年半前に、岸和田市に転居。岸和田という町は城下町としての歴史を背景にして実に人材面で層の厚い町という印象を持つ。

http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/intro_mizuuchi.htm

* ホームレス問題について

1998年 磯村大阪市長の時代に、ちょうどホームレス問題が顕在化し、大阪市から委嘱され実態調査を始めた。実態調査の範囲は大阪市から、2001年には府全域に、さらに今全国調査までに広がっている。

自立支援センターのバックアップにもここ数年かかわっている。 野宿考ジャーナル「なにわ路情」

を発刊し野宿生活者、脱野宿生活者に手渡ししている。昨年、西成区について生活保護費 550 億円の実態を、ケースワーカー 50 人の協力を得て調べた。人口 13 万人区民のうち 2 万人の生活保護者がいるが、医療扶助に 3 分の 2 が費やされ、医療費として消える分が多くて地域に落ちる金は多くないが、最近年住居扶助という形で、区内への地域居住が急速に増えてきたことが判った。脱野宿者は、結局畳の上に上がった高齢単身者（独居老人の地域定着支援）のケアとイコールとなり、もともと地域との関係がほとんど希薄であったため、地域定着は大きい課題である。生活保護者が多くまとまって住んでいる俗称「福祉アパート」が増加する一方で、年金生活で細々と暮らしている人の居住危機が生じているといった、深刻な問題も出ている。就労復帰可能な人が 2 %、福祉的就労可能者 19 %、就労できないが外部とのコミュニケーションが取れボランティア程度可能者が 32 %で地域でなんとか生活できる。残りの 50 %が社会的生活や日常生活自立がギリギリにあるような人となり、彼ら彼女へのケアには既存のケースワーカーで面倒を見ることはたいへんしんどい。ボランティアがどう動くかという仕掛けが必要である。

<http://www.osaka-sfk.com/nishinari/index.html>

＊ 西成での経験から全国的な問題として政治の問題としなければならないと思うにいたった。時限立法「ホームレス自立支援法」ホームレスの問題は政治の中央にもってゆかねばならない。ホームレス支援団体、畳の上に上がった人、野宿している人の取材に、全国行脚を始めた。ホームレス問題支援NPOの全国結集体を作ろうとしている。関西はこの種のNPOはとも少ない。

<http://www.osaka-sfk.com/homeless/index.html>

＊ ホームレス問題とまちづくりはどういう関係があるか

狭義のホームレス 野宿生活者、「浮浪者」は見えるホームレス

大阪市では5000人、公園、高架下、河川敷に1500人くらいか。でも恒常的に長期間、街路を徘徊している人も1割は下らないであろう。

3 ぶんの 2 の見えないホームレスについて、ホームレス自立支援センターにかかわっていることより、見えてくることが多い。入所者面談から ニート・フリーターなども含めて40歳未満の若者が 15 %いる。

夜明かし型の若者ホームレス 移動型（見えない） 日雇い派遣労働者 住込み宿舎と野宿の使い分け 野宿定着の見えるホームレスばかりではない。移動層も2割くらいいる。就労パターンが違うので誤解されやすい。実質上月収 8－9 万程度の生活レベルを維持できる場合もある。野宿で就労自立している人もいる。

テントは市内の公園から府下の河川敷に移りつつある。アル中、統合失調症の野宿をしている人々のケアがようやくはじまった段階。

ホームレス問題は顕在化しているテント生活者や浮浪者だけではなく顕在化しないニート、フリーターなど就労していない人々が多数存在している事に注目しなければならない。

ホームレス自立支援センターは集団生活でのリハビリによる 就労活動を支援している。大阪市内に4箇所、堺市に1箇所設置されている。福祉施設としての位置づけであるが、実際はひじょうに広範な人々への対処をしており、使い勝手のよい施設として、職員の負担や多様なスキルの要請に、日々悪戦苦闘中である。他に「アセスメントセンター」（短期滞在で配属先を決める）はまだ少ない。

アウトリーチ（巡回相談員）（出向いて声掛けし自立支援の相談をする）大阪市内に47人大阪府に12人。

自立支援センターや、病院、施設入所へのつなぎの役割を果たしている。

<http://www.kamagasaki-forum.com/>

* 全国の状況はどうか？

ホームレス自立支援法に基づき初の全国一斉調査はじまる

今年1月から、野宿生活を送られている方を対象にした初の全国一斉調査が実施されています。昨年7月31日に成立した「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」（略称・ホームレス自立支援法）に基づき、野宿生活を送られている方が一体何人いるのか（概数調査）、そして100人以上いる市町村では、野宿生活を送られている方がどのようなニーズをお持ちなのかなどについての聞き取りが全国で約2000人を対象に開始されます。

野宿考ジャーナルより

この調査をふまえて、国（厚生労働省と国土交通省）は野宿生活から脱却するための支援（自立の支援等）に関する基本方針（以下「基本方針」という）を策定し、都道府県や各市町村では、この基本方針、基本計画に即した実施計画をたてることになっています。

ホームレス支援の先端はキリスト教会で炊き出しなどの活動をしている。

- ・札幌 労福会 なんもさ キーパーソンの存在
- ・神戸 震災ボランティアからホームレス支援へ
- ・京都 元工場などの自立支援センター、アセスメントセンターもある
- ・名古屋 市営の簡易宿泊所（神戸にもある）
- ・新潟 元遊郭
- ・徳島 公園
- ・和歌山 借り上げアパート
- ・堺 自立支援センター、民間側の受け皿はこれから

町のボランティアが中心人物となって行政と協力体制を作っている例をいろいろ紹介された。

記録者（今村）注

WEB版野宿考「なにわ路情」<http://www.naniwa-rojo.com/> にはホームレス実態調査全国行脚の具体的な状況レポートが掲載されています。

8 まちネット参加者の発言

- ・水内先生の自宅を建設した。まちネットには初参加
- ・若い人で国民年金を払っていない人が多いが将来が気懸り。
- ・大阪市で福祉の仕事をしていた。福祉には悪徳業者もいる。岸和田などでも対象者が少ないうちに対応するのが良い、大集団ができてからではいろいろ大変だ。
- ・あいりん地区のホームレスとの共生状況に関心がある。

- ・ 小学校長で登校時の校門に立つがホームレスが増えているように思う。
- ・ 女性のホームレスについて知りたい。 住民とホームレスとの共生。
- ・ ホームレスを見掛けるが、われわれはどう対応してよいかわからない。生活保護の道もあるのでは。
- ・ ホームレスの実態について、良く判った。 大阪市にはホームレスが多いように思うが大阪主審なのか。
- ・ 大津川に大きいテントがあったが今は見なくなった。 どうしたのかしら？
- ・ 野宿者ばかりがホームレスではないという話にドッキリした。
- ・ 多様なホームレスが居るが精神障害者などの場合は優先的に保護しなければならないのではないのか？
- ・ 大学教養課程で水内先生の授業を受けてフィールドワークの経験がある。今日のお話で先生の研究について良く理解できた。 若いホームレスも多いと聞くがどうして働かないのかと思う。
- ・ ホームレスの実態についての話は初めて聞いた。まちづくりとの関係も理解できた。
- ・ 広報きしわだを見て初めて参加した。土生神社の阪井宮司がホームレス問題に関心をお持ちです。
- ・ 今宮高校卒業でホームレスの姿はよく見かけたが自分とは関係ないものと思っていたが、今の世の中保障も無く普通の人でも働けなくなればホームレスになる可能性があるのではないのでしょうか？
- ・ ボランティアで市民の情報技術の支援をしているが、思うにまかせない。ホームレス問題もよく知ることが手始めでみんなで考える必要があるのでは。
- ・ 市役所の職員です。 ホームレス支援で市民ボランティアの役割と市職員の役割についてどう考えて行けば良いのでしょうか？事例ではボランティアが活躍されているが。
- ・ 図書館で働いている。図書館にも毎日それらしき人がきて長時間居る。少し怖い感じがする。

質問を受けて水内さんの話

- ・ 岸和田でも皆さんと一度夜回りをして野宿者に声を掛けてみませんか？ 怖いという思いがなくなりますよ。炊き出しというより、デリバリングであり、おにぎりの場合が多い。まず彼等とコミュニケーションをできることが大切だ。
- ・ 松山、鹿児島、旭川など役所が率先して生活保護とかの法的救済をしているところもあるが、後のフォローはボランティアが出ないとうまくゆかないようだ。四国でお遍路さんへの心遣いのようにやっている寺もある。 日頃のネットワークを作っておくことが大切
- ・ 釜ヶ崎などでの高齢単身者の場合へのケアーでは安心して地域で生活を全うすることを望む人が増えてきた。高架下に葬式のできる寺を作ろうという話もある。
- ・ 就労の問題。40歳くらいまでなら今は希望すればほとんど就職できる。しかしその就労形態そのものが低収入で不安定であり、また続かないことが問題なのである。働き続ける事を支援する必要もある。
- ・ 仕事作り 社会的な仕事は単に民間に任せないでNPOと組んで半仕事・半福祉でよいから公園清掃や子ども見守りと犬の散歩を組み合わせでやっているところもある。
- ・ 女性のホームレス は少ない3%くらい。 女性の単身野宿はむずかしい。多くの場合が同居となっている。

以上